

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
214	日本史探究①	4	2	総合学科	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等
日本史探究①」を履修する場合は、3年次の系列選択Gの「日本史探究②（3単位）」も継続履修すること。

科目の目標
我が国の歴史に関する諸事象について地理的条件や世界の歴史、資料等を活用して平和で民主的な国家の形成に必要な公民の資質能力を以下のとおり育成することを目指す。 ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史に関わる諸事象について、多角的・多面的に理解し、諸資料から情報を効率的にまとめる技術を身に着けている。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史に関わる諸事象について、意味や意義をとらえ、相互の関連、現代とのつながりに着目し、概念を使って構想し、その構想について説明し、議論する力を身に着けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を意識して、課題を主体的に追求し、解決しようとする態度が身についている。
評価の方法	
記述内容の点検、確認、分析 講堂態度の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート・プリント等の提出物、授業への取り組み状況 等)	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	先史社会の生活と文化	旧石器時代の日本	人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。	○		
		縄文文化	縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。	○		
		弥生文化と小国家の形成	日本に小国家が形成されるまでの過程について仮説を立て、検証する。			○
	歴史資料と先史・古代の展望	先史・古代の資料の特質	先史・古代の資料の特質を理解し、表現する。		○	
		東アジアとの交流	東アジアとの交流に関する情報を収集し、読み取る。			
		木簡が語る律令国家の実態	木簡から読み取った情報をもとに、律令国家の実態について推測し、表現する。		○	
5	古代社会の形成と展開	大和王権と古墳文化	大和王権の成立から中央集権国家の成立までの過程について見通しを持ち、問を立てる。			○
		飛鳥の朝廷と文化	飛鳥時代の政治と文化について理解する。	○		
		律令国家の形成と白鳳文化	律令国家の形成過程と律令制の特徴について理解し、表現する。		○	
		平城京と天平文化	平城京に関する資料を多角的に考察し、白鳳期との違いを表現する。		○	
		平安遷都と唐風文化	天皇中心の国家体制が貴族中心の政治に変化していく過程について問いをたてる。			○
		貴族社会と摂関政治	藤原氏の台頭と土地の支配制度の変化に伴う武士の出現の因果関係を理解する。	○		
		国風文化	政治体制の変遷が文化面にどのような影響を表現する。		○	
7	中世社会の成立	朝廷政治の変容	院政の開始と展開、土地支配の変容について理解する。	○		
		武士の政治進出	古代から中世への転換に着目し、時代を通観する問いをたてる。			○
9	歴史資料と中世の展望	武家権力による日本社会の変容	武家権力による日本社会の変容に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	○		
		厳しい自然環境での人々の生存戦略	厳しい自然環境での人々の生存戦略を資料から読み取り、表現する。		○	
		中世日本の国際交流	中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、仮説を表現する。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
10	武家政権の成立と朝廷	鎌倉幕府の誕生	武家政権が全国を支配するに至るまでの過程に見通しを持ち、問を立てる。			○
		執権による政治	執権政治の特色について理解する。	○		
		モンゴル襲来と社会の変貌	モンゴル襲来と鎌倉時代の社会の変化について資料から読み取り、鎌倉幕府が衰退した理由を表現する。		○	
		鎌倉の仏教と文化	武家政権の伸張とが文化や社会に与えた影響について仮説を立て、検証する。			○
11	武家支配の広がり と国際交流	南北朝の動乱と 室町幕府の成立	鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。	○		
		倭寇と東アジア国際交流	室町時代の対外関係と、そのねらいについて表現する。		○	
		室町時代の社会と経済活動	貨幣経済の拡大が室町時代の社会に与えた影響を資料を基に推測し、検証する。			○
		自立する戦国大名	戦国大名が出現した背景と、その分国支配と都市の発達について理解する。	○		
		室町文化	地域権力の成長が、社会や文化にどのような変化をもたらしたのか問を立て、検証する。			○
12	近世社会の形成	地球的世界の形成と日本	アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が日本に及ぼした影響について理解する。	○		
		織豊政権による全国統一	織豊政権による全国統一と、政策の目的や意義について理解する。	○		
		桃山文化	織豊政権による全国統一が文化や社会に与えた影響を表現する。		○	
1 2	歴史資料と 近世の展望	参勤交代と幕藩体制	参勤交代と幕藩体制に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	○		
		百姓たちの生活世界	百姓たちの生活世界に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察する。		○	
		江戸時代の対外関係	江戸幕府の対外関係の変遷を理解する。	○		
		近世の身分と人々の暮らし	近世の身分と村や町での生活について理解する。	○		
		アジアのなかの幕藩体制	鎖国に至る経緯を理解し、それが社会に与えた影響について問を立て、検証する。			○
		武断政治から文治政治へ	武断政治から文治政治に転換した要因について問を立て、検証する。			○
		幕藩体制下の社会の発展	幕藩体制下で発展した産業と文化のについて理解する。	○		

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
215	世界史探究①	4	2	総合学科	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等
「世界史探究①」を履修する場合は、3年次の系列選択Gの「世界史探究②（3単位）」も継続履修すること。

科目の目標
「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	世界の歴史事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価の方法	
記述内容の点検、確認、分析 行動態度の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート、プリント等提出物、授業への取り組み状況 等)	

学習計画							
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
4	世界史へのまなざし	自然環境と人類の進化	現在と異なる過去や現在と結びつく過去について探究することで、世界史を学ぶ意味や意義を見出している。			○	
		料理から見る世界のつながり					
		ミュージアムの歴史 家族の歴史	日常生活と世界史のつながりという観点から、世界の歴史について探究している。			○	
	文明の成立と古代文明の特質	文明の誕生	獲得経済から生産経済への多様な発展の仕方を理解する。	○			
		古代オリエント文明とその周辺	神権政治の特色とその伝播を分析し、王の存在意義を探究している。			○	
		南アジアの古代文明	他地域の神権政治の共通点・相違点について理解している。	○			
	5	中国の古代文明	神権政治について多面的・多角的に考察し、表現している。		○		
		南北アメリカ文明	古代世界の神権政治の多様性を理解している。	○			
		中央ユーラシアと東アジア世界	中央ユーラシア	騎馬遊牧民が形成・発展させた国家や社会を理解している。	○		
			秦・漢帝国	秦・漢や北方民族の支配体制を比較して、それぞれの支配制度のメリット・デメリットについて多面的・多角的に表現している。			○
東アジア文化圏の形成	隋・唐の繁栄の要因を多面的・多角的に考察し、表現している。				○		
6	南アジア世界と東南アジア世界の展開	仏教の成立と南アジアの統一国家	仏教やヒンドゥー教が、人々の生活を安定させ豊かにするものであったのか話し合い、より良い社会形成のための宗教のあり方を主体的に追究している。			○	
		インド古典文化とヒンドゥー教の定着					
		東南アジア世界の形成と展開	東南アジアと「海の道」の政治的文化的関係を理解している。	○			
7	西アジアと地中海周辺の国家形	イラン諸国家の興亡とイラン文明	西アジアにおいて、イラン系の人々が形成した国家・社会、文化について探究している。			○	
		ギリシア世界	ギリシア民主政と現代の政治制度との違いを理解している。	○			
		ローマと地中海支配	ローマ帝国の支配方法を考察し、長期に繁栄した要因を判断する。			○	
		キリスト教の成立と発展	キリスト教が広がった背景やローマ社会の特色について理解する。	○			
	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	アラブの大征服とカリフ政権の成立	イスラーム教が西アジア・北アフリカを変容させていく状況を多面的・多角的に考察し、再定義している。			○	
		ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の形成の基盤にキリスト教があることを理解する。	○			

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	イスラーム教の伝播 と西アジアの動向	イスラーム教の諸地域への伝播	イスラーム世界の拡大が、伝播した地域にどのような影響を与えたか話し合い、イスラーム教の拡大の持つ意味を主体的に追究している。			○
		西アジアの動向				
		ヨーロッパ世界の展開	西ヨーロッパ中世の枠組みや体制の形成について理解している。	○		
		東ヨーロッパ世界	スラヴ人の国家形成やスラヴ世界の特徴を理解している。	○		
10	ヨーロッパ世界の展開 とモンゴル帝国	西ヨーロッパ世界の展開	近代国家の形成が始まる状況を多面的に考察し、再定義している。		○	
		中世文化	中世西ヨーロッパの文化の特徴を理解している。	○		
		東アジア世界の展開 とモンゴル帝国	モンゴル帝国の拡大と影響について分析し、モンゴル帝国の歴史的意義を探究している。			○
		大交易・大交流の時代	明朝の朝貢貿易や周辺諸国との関係について理解している。	○		
11	アジアの諸帝国の栄 栄	ヨーロッパの海洋進出	西欧の海外進出が、「世界の一体化」の端緒となることを多面的・多角的に考察し、再定義している。		○	
		アメリカ大陸の変容				
		オスマン帝国とサファヴィー朝	オスマン帝国の領域拡大の経緯を分析し、どのような統治がおこなわれたのか、その実態と影響を探究している。			○
		ムガル帝国の興隆	ムガル帝国のヒンドゥー教徒に対する統治について理解している。	○		
12	清代の中国と隣接諸地域	清朝の漢民族への統治政策を分析し、その目的と特徴を理解する。				○
	近世ヨーロッパ世界の 動向	ルネサンス	ルネサンス運動の特徴を分析し、その意義について探究している。			○
		宗教改革	カトリック改革や宗教対立を通して、宗教改革を定義している。		○	
		主権国家体制の成立	主権国家体制の成立と絶対王政の存在意義について理解している。	○		
1	産業革命と環大西洋 革命	オランダ・イギリス・フランスの台頭	オランダ・イギリス・フランスの国制を多面的・多角的に考察し、多様性を理解する。		○	
		北欧・東欧の動向	北欧・東欧で起こった興亡や歴史の多様性を理解している。	○		
		科学革命と啓蒙思想	科学革命と啓蒙思想について多面的・多角的に考察し、科学革命と啓蒙思想について定義している。		○	
2	イギリスの優位と欧 米国民国家の形成	産業革命	産業革命の多面性とその影響についてを理解する。	○		
		アメリカ合衆国の独立と発展	アメリカ独立の特色や多様性について理解している。	○		
		フランス革命とナポレオンの の支配	フランス革命とナポレオンの支配について多面的・多角的に考察し、改めてフランス革命と発展について定義している。		○	
		中南米諸国の独立	産業革命と環大西洋革命が、現在の民主主義社会を作り上げるのにどのような影響を与えたのかを話し合い、現代の社会においてよりよい民主主義社会や経済のあり方を主体的に探究している。			○
2	ウィーン体制と政治・社会の 変動	19世紀前半のヨーロッパの国際秩序を規定した、ウィーン体制の構築と解体を探究する。				○
		列強体制の動揺とヨーロッパ の再編成	19世紀後半の国際情勢と、ドイツ統一後に再建された列強体制再建の影響を多面的・多角的に考察し、国際運動の進展の関係について理解する。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
216	化学	4	2	総合学科	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等

総合学科で3年次に「化学演習」を履修する場合は、2年次に必ず履修しておくこと。

科目の目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	化学や化学現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に着けている。
② 思考・判断・表現	事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 実験・観察などの基本操作を習得し、化学の事象・現象を科学的に探究する技能を身に着けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら化学や化学現象への関心を持っている。

評価の方法

授業ノートの提出・確認、行動の観察、課題の提出(取り組み状況と提出状況)、小テスト、定期テスト、実験の報告書提出 など

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	物質の状態	物質の状態変化	状態変化を熱運動と圧力に結びつけて理解している。	○		
		気体の性質	気体の性質について理解し、温度や圧力などを求めている。 混合気体で、分圧とモル分率が関連していることを理解している。		○	
		固体の構造	固体の体積・粒子数・質量・密度の関係性を理解している。	○		
		溶液の性質	溶液の性質と溶解度について理解している。 凝固点降下、沸点上昇、蒸気圧降下、浸透圧について粒子モデルを用いて原理を理解している。	○		
5			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。		○	
						○
6	物質の変化と平衡	化学反応と熱・光	化学反応のエネルギーをエンタルピーを用いて表している。 光もエネルギーに関係していることを理解している。	○		
		電池・電気分解	電池と電気分解の原理を理解し、必要な物質や反応を示している。 実生活で用いられている電池に関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○		
		化学反応の速さ	化学反応の速さを単位時間あたりの減少量、増加量で表している。 反応速度に濃度、温度、触媒が影響する理由を説明している。	○		
		化学平衡	平衡状態を理解し、平衡定数や反応物と生成物の濃度を求めている。 濃度や温度などの条件を変えた場合に、平衡がどのように変化するかを考え、説明している。		○	
7					○	
						○
9	電離平衡	弱酸、弱塩基の水溶液が平衡状態であることを理解している。		○		
		緩衝液、緩衝作用を理解し、説明している。			○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
10 11	無機物質	周期表と元素の性質	各元素の単体・化合物において物理的・化学的性質のグループ分けが、周期表をもとに説明している。		○	
		非金属元素	非金属元素の単体や化合物における特性や反応を理解している。	○		
		典型金属元素	典型金属元素の単体や化合物における特性や反応を理解している。	○		
		遷移元素	遷移元素の単体や化合物における特性や反応を理解している。	○		
			金属イオンの特性を踏まえ、混合溶液の定性分析を説明している。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
12 1	有機化合物	有機化合物の特徴	有機化合物の特徴と性質を理解している。	○		
		脂肪族炭化水素	脂肪族炭化水素の構造や反応について理解している。	○		
		酸素を含む脂肪族化合物	特徴的な官能基とその性質を理解している。	○		
			構造式と名称を関連付けて理解し、表現している。		○	
		芳香族化合物	ベンゼンの特性と利用について理解している。	○		
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
2	高分子化合物	高分子化合物	高分子の特徴や分類について理解している。	○		
		天然高分子化合物	天然高分子の特徴とその利用を関連付けて理解している。		○	
		合成高分子化合物	合成高分子の生成方法、特徴とその利用について理解している。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
3	化学の築く未来		化学で学んだ事項が日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解している。	○		
			日常生活や社会で利用されている科学技術の具体的事例について調査し、的確にまとめて表現されている。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
217	情報処理	4	2	総合学科 (ビジネス教養系列)	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等

総合学科で3年次に「ビジネス情報」を履修する場合は2年次に必ず履修しておくこと

科目の目標

- 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 - (2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
 - (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価の方法

記述の点検、確認、分析
行動の観察、確認、分析
(定期テスト、小テスト、課題レポート、提出物の取組状況、授業への取組情報 等)

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	企業活動と情報処理	企業活動と情報処理	企業における適切な情報処理について理解している。	○		
			企業の情報処理に関連する技術を身に付けている。		○	
			情報処理の意義と課題を企業活動と関連付けて見いだすことができる。		○	
5	企業活動と情報処理	企業活動と情報処理	企業における情報処理について自ら学ぶことができる。			○
			適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組むこと。			○
6	コンピュータシステム と情報通信ネット ワーク	コンピュータシステム と情報通信ネット ワーク	実務での活用に即して理解している。	○		
			関連する技術を身に付けている。		○	
7	コンピュータシステム と情報通信ネット ワーク	コンピュータシステム と情報通信ネット ワーク	課題を発見することができる。		○	
			情報を収集し管理する方策を考案、実施、評価・改善できる。		○	
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	情報の集計と分析	情報の集計と分析	実務に即して理解している。	○		
			関連する技術を身に付けている。			○
10	情報の集計と分析	情報の集計と分析	ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析できる。		○	
			情報を集計・分析して表現し、評価・改善することができる。		○	
			ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学ぶことができる。			○
			適切な情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組める。			○
11	ビジネス文書の作成	ビジネス文書の作成	実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○		
			ビジネス文書の作成に対する要求を分析することができる。		○	
12	ビジネス文書の作成	ビジネス文書の作成	文書を作成するために必要な情報を表現し評価・改善ができる。		○	
			ビジネス文書の作成について自ら学ぶことができる。			○
			適切な情報の発信に主体的かつ協働的に取り組むこと。			○
1	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションについて実務に即して理解している。	○		
			関連する技術を身に付けている。	○		
			プレゼンテーションに対する要求を分析することができる。		○	
			伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善できる。		○	
2	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションについて自ら学ぶことができる。			○
			適切な情報の伝達に主体的かつ協働的に取り組める。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
218	保育基礎	2	2	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等
実習・製作等にかかる材料費、必要なものについては授業で指示をする。

科目の目標
子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。
② 思考・判断・表現	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。
評価の方法	
提出プリント、作品、定期テスト等	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	1 章 子どもの保育	1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義	・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。	○	○	○
		2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導	・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。	○	○	○
		3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題	・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	○	○	○
5	2 章 子どもの発達	1 節 子どもの発達の特性 1 発達と保育 2 発達の共通性と個性	・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。	○	○	
		2 節 子どものからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴	・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する	○	○	
6		3 節 子どもの心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達	・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。	○	○	
6		特集 月齢、年齢別の発育・発達	・誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。	○	○	

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
7	4章 子どもの文化	1節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場	絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。	○	○	
	4章 子どもの文化	2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。		○	○
9 10	3章 子どもの生活	1節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活	・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。	○	○	○
		2節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的な生活習慣	・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。	○	○	
12		3節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置	・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する	○	○	
1	5章 子どもの福祉	1節 子ども観 1 子ども観の変遷 2 権利の主体としての子どもへ	・子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。 ・時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する	○	○	
		2節 子どもの福祉 1 児童福祉 2 子どもをとりまく課題と対策 3 子どもが育つ社会環境	・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考える。	○	○	○
3		3節 子育て支援 1 子育て支援からパートナーシップへ 2 社会的養護 3 地域の子育て支援	・子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察する。	○	○	○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
219 344	社会福祉基礎	2	2	総合学科 (健康福祉系列)	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等
2年次系列選択Bで履修した者は、3年次系列Iでは同科目を選択できません。

科目の目標
福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている
② 思考・判断・表現	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価の方法	
定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉	私たちの生活と社会福祉の関りについて理解している。		○	
		社会福祉の理念	社会福祉が持つ理念やその在り方について理解している。		○	○
5		人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	人間の尊厳と自立生活支援の考え方について理解している。 新たな社会福祉の創造の在り方について理解している。		○	○
	社会福祉の歴史と次代の展望	諸外国における社会福祉	諸外国における社会福祉の思想について理解している。	○		○
		日本における社会福祉	日本の社会福祉がどのように発展してきたのか理解している。	○		○
6	生活を支える・社会福祉・社会保障制度	社会保障制度の意義と役割	私たちの生活を支える社会保障制度の意義と役割について理解している。	○	○	○
		子ども家庭福祉	児童および家庭を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○
7						

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	生活を支える・社会福祉・社会保障制度	障害者福祉	障害者を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○
		高齢者福祉と介護保険制度	高齢者を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○
10		生活支援のための公的扶助	生活支援を目的とした公的扶助について理解している。	○	○	○
		国民の生活を支える社会保険制度	私たちの生活を支える社会保障制度について理解している。	○	○	○
11	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの意義と手段について理解している。	○		○
		支援における人間関係の形成	支援における人間関係の形成において大切なことを理解している。	○		○
		社会福祉における支援活動の概要	社会福祉における支援活動について理解している。	○		○
12	地域福祉の発展と多様な社会的支援制度	多様な社会的支援制度	社会福祉に関連する社会的な支援制度の種類、歴史、現状等について考察している。	○	○	○
		地域福祉の発展と地域の将来	これからの地域福祉・まちづくりについて考察している。	○	○	○
2						